



曲名 信じる

谷川俊太郎 作詞
松下 耕 作曲

この曲は！

第71回（平成16年度）NHK全国学校音楽コンクール中学校の部の課題曲として、谷川俊太郎さんの書き下ろしの詩に松下耕さんが作曲されました。「信じるとはいったい何なのか」ということをいつの時代にも問いかけている名曲です。谷川さんの詩は松下さんのリクエストによるものでしたが、松下さんは受け取った詩があまりにも完璧すぎて、当初、曲がまったく浮かばなかったそうです。そして神からの啓示のように美しい音が降ってきたと回顧しています。まさに信じ続けたことにより生まれた、最高傑作だと思います。この曲はDes dur（変二長調）で書かれていますが、松下さんが「慈愛の調」と呼ぶ、彼自身が最も好きな調性です。

藤原式練習法

この歌の場合は、詩のストーリーをきちんと見つめ、歌がどこに向かっていくのかを感じながら歌うことが大切です。

- ・3連からなる詩の第1連目は、まず「私」の存在を感じながら、「信じることに理由はいらない」というメッセージに向かって歌おう。
- ・第2連目は、詩を遡って考えていくとストーリーが見えてきます。「私」が信じたい「あなた」とは誰なのか、何から目をそらさなかったのか、どんな写真なのか、どうして子どもは足をなくしたのか、というように一つ一つの言葉を丁寧に押さえよう。
- ・第3連目は、「信じることは生きるみなもと」という言葉に向かって、生きることの讃歌、命の讃歌として歌い上げよう。

具体的なアドバイス・ポイント

- ・一つ一つの言葉を大切に発音しながらも、まずはフレーズをレガートに、それから自然なクレシェンドをつくるように歌いましょう。前半のレガートのつくり方が美しいほど、37小節からのPiù mossoのリズムが生きてきます。
- ・37小節からは正しいリズムで歌いましょう。特に4分音符が短くなってしまいがちなので、語尾の音符の長さをきちんと捉えていくとよいです。45小節からは、各パートの音程を正しく取って縦をそろえましょう。
- ・66小節からは、女声は両パートを歌えるようにするとよいと思います。ソプラノは歌い上げるところで音が固くなりやすいので、アルトの音を感じて歌いましょう。アルトもしっかり音をさらって支えてください。
- ・「la」の部分とはにかくのびやかに歌ってほしいですが、母音が平べったくならないように、必ず「l」と「a」の発音を意識してつなげていくことが大切です。響きや深さなど「la」の音色をいろいろと研究してみるとよいでしょう。

この曲を 初めて歌う人に

まずは、作曲者自身も感動したという谷川さんの詩を黙読したり音読したりして、思う存分、味わってみてください。そして、感じたものを声に出して、どんどん歌っていくことが大事だと思います。

表現を深めよう

曲自体がもっている表現やエネルギーを感じるままに歌うことを意識しましょう。例えば、52~57小節にかけて、各声部で「いのち」という言葉の前に4分休符が置かれますが、ここで、歌いながらふっと笑みを見せるだけで、聴いている人にはすごく美しい命に見えてきます。命がどれだけ大事かということを感じて歌うと、この曲が生きてきます。

より感動的に 歌い上げるための アドバイス

一緒に歌っている人たちのこと、そして共に生きていることをいっぱい感じて歌いましょう。ときおり、向かい合ったり、みんなでバラバラに立ってみたり、全員で円陣を組んだり、手をつないでみたり……。いろんなことをして歌ってみてください。そして、谷川俊太郎さんの詩に多く触れてほしいと思います。谷川さんの詩と松下さんの音楽が見事に融合した「信じる」は感動の名作です。魂を揺さぶる演奏を期待しています。